

今日のトピック ASEAN4のGDP成長率(2014年4-6月期) 3カ国の実質GDP成長率が加速

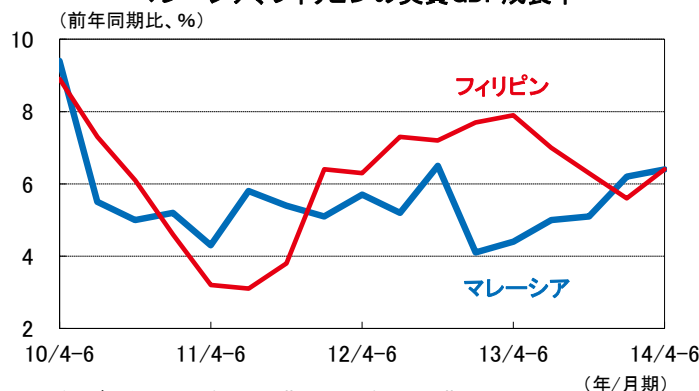
ポイント1

マレーシア、タイ、フィリピン で経済成長が加速

インドネシアは小幅に減速

- マレーシアの2014年4-6月期の実質GDP成長率は前年同期比+6.4%と前四半期(同+6.2%)から加速しました。消費は鈍化したものの、固定資産投資と輸出がけん引しました。
- タイは同+0.4%と前四半期(同▲0.6%)からプラスに転換しました。消費と投資に底入れ感が出てきました。
- フィリピンは同+6.4%と前四半期(同+5.6%)から加速しました。輸出が好調を維持しました。
- インドネシアは同+5.1%と前四半期(同+5.2%)から減速しました。輸出が減少しました。

マレーシア、フィリピンの実質GDP成長率



(注) データは2010年4-6月期～2014年4-6月期。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

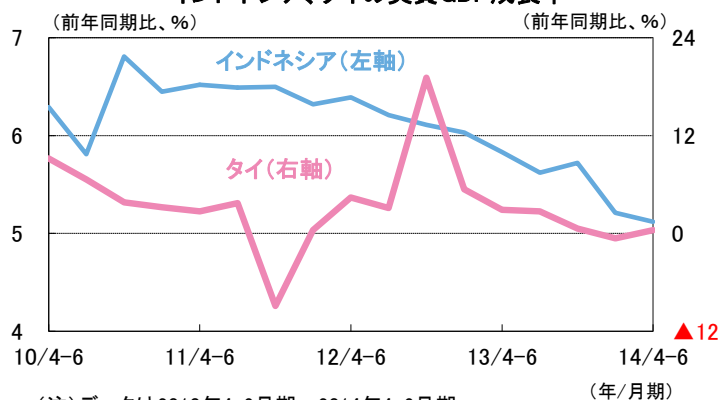
ポイント2

輸出は明暗が分かれる

純輸出は4カ国の成長率を押し上げ

- マレーシアとフィリピンは輸出をけん引役に高成長を維持しました。一方、インドネシアの輸出は資源関連を、タイの輸出は自動車関連を要因として不振となりました。
- 4カ国の純輸出(輸出-輸入)は、概ね輸入が抑えられたことから、各国のGDP成長率を押し上げました。また、在庫投資は4カ国の成長率を押し下げました。

インドネシア、タイの実質GDP成長率



(注) データは2010年4-6月期～2014年4-6月期。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開

景気は輸出の回復やインフラ投資に支えられ堅調に推移する見込み

- マレーシアとフィリピンでは輸出の好調が引き続き見込まれます。タイとインドネシアの輸出も、米国経済の回復や中国経済の安定化による回復が見込まれます。
- インドネシアでは10月発足の新政権によるインフラ投資の拡大が、タイでは暫定内閣の発足を受けた政情の安定化が見込まれることから、内需が持ち直しそうです。
- マレーシアとフィリピンの物価上昇率は上昇傾向です。高成長を背景に両国の中央銀行は追加利上げを行いそうです。
- タイの物価上昇率は低位での安定が当面見込まれます。インドネシアの物価は、補助金政策の変更などにより燃料価格が上昇に向かうとの見方もあります。景気支援のため、両国の政策金利は現状の低水準に当面据え置かれそうです。

ここも チェック!

2014年07月08日【デیلیー No.1,908】アジア新興国(4カ国)の製造業PMI
2014年06月30日【デیلیー No.1,902】アジア・オセアニア株式市場

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。